

SPECIAL FEATURE

特集

工場長メッセージ 「地域社会との共生」

栃木工場



栃木工場長
浜田 章郎

栃木工場が立地する佐野市葛生地区は、石灰石が豊富で石灰工業を生業とする企業が集まっています。長い歴史を持つ地域ではありますが、少子高齢化による人口の減少が年々進んでおり、現地での若手人財の採用が難しくなっています。その中で地域貢献・人財確保の為に、私たちは地域の皆様に信頼され好まれる会社にならなければならないと考えます。

その取り組みとして地域とのコミュニティ活動を推進し、地域のお祭りや行事にも積極的に参加することで地域文化の維持・発展に貢献し、会社をよく知ってもらう活動をしています。また、採用活動では訪問する学校のエリアを広げ、学校や先生、生徒の皆様に工場見学やインターンシップを通じてセメント工場の役割、社会貢献について知っていただく努力をしています。

そして工場内の取り組みとして働きやすい環境づくりにも注力していきます。セメント工場は24時間操業しており、交替勤務労働者作業の負荷軽減にも目を向け、設備の自動化や省力化、DX推進にも取り組んでまいります。



インターンシップ生への現場説明の様子

「地元と共に未来を創る」岐阜工場は「清流の国ぎふ」の地で操業し、64年目を迎えます。「ものづくり」が盛んな中部圏の立地メリットを最大限に活かし業界トップクラスの廃棄物・副産物原単位を実現、インフラ整備として多品種のセメントを供給し、中部圏の循環型社会の要を担うとともに災害廃棄物を処理する体制も整っています。

当工場は、濃尾平野のほぼ北端の本巣市に位置します。自然豊かな環境と暮らしやすさの両面を併せ持っており、地域と共に今後も発展し続ける為、地球環境に配慮しCO₂の排出を削減しながら持続可能な企業活動を営んでいきたいと思っています。

特に重要なステークホルダーである地元住民の皆様との良好な関係を続けていく為に、地元行政・自治会との定期的なコミュニケーションをはじめ、恒例となった工場主催の夏祭りは地元住民の皆様をお招きし、年々盛大に開催しています。今後は工場を「コミュニケーション拠点」とし、地元住民の皆様や学校などに対してオープンな工場を構築したいと考えています。働きやすい職場・現場づくり、若手が成長できる仕組みづくりを通じて皆がワクワク「ものづくり」を楽しむとともに、将来への夢や希望を若手人財にしっかり提供できる工場づくりを目指していきます。



岐阜工場主催 夏祭りの様子

岐阜工場



岐阜工場長
佐々木 雅彦

赤穂工場



赤穂工場長
大橋 博

赤穂工場は、1966年の操業開始から2024年で58年を迎えます。赤穂市は古くには塩田で栄えた街ですが、今では名だたる企業が多く進出しています。その中で操業を続けていく為には、地域貢献・人財確保が重要です。地域の各種行事に積極的に参加し、毎年工場周辺のごみ拾いを実施するなど地域に貢献しています。また、年末年始などのプレヒーターのライトアップは赤穂市の観光名物になっており、地元の皆様の楽しみの一つとなっています。人財確保の取り組みの一つに、職業訓練の一環として近隣の中高生をインターンシップや「トライやる・ウィーク」で毎年受け入れますが、工場を学ぶの場として提供するのと併せてセメント産業が動脈・静脈産業として社会に貢献していることを若い人たちへアピールする場としています。今後も地域貢献や見学会などを通じて、少しでもセメント工場を理解し興味を持ってもらえるよう取り組むことで、赤穂工場があって良かったと思われるよう努めていきます。



セメント協会主催 赤穂工場見学会の様子

この数年、人財確保は重要課題の一つになっています。そこで、採用活動範囲を工場のある須崎市だけでなく高知県全域まで広げましたが、今後は更に当社の認知度を向上させる取り組みを実施していきます。インターンシップや工場見学、高校に向向き卒業生による業務説明会を積極的に増やしているところです。また、地域貢献としては、環境保全活動として高知県が推進する協働の森づくり事業に協賛し、森林の再生と間伐材の利用を促進するほか、南海トラフ地震を踏まえての須崎市との災害廃棄物包括連携協定締結や、地元小学生への出張授業など幅広く進めています。福利厚生面では2023年に、単身者用社宅を竣工しました。それまでは築約60年でトイレや風呂が共同でしたが、アパートタイプの居室とし、住環境の改善が図られたと思います。また、昨年よりリファラル採用や複数の求人サイトを利用し、U・Iターン含め中途採用活動も始めました。原燃料の横持作業や投入作業などに携わる協力会社人員の採用も厳しくなっていますが、設備の省力化なども今後、着手していきたいと考えています。



竣工した単身者(単身)用の赤崎新社宅

高知工場



高知工場長
廣島 雅人

八戸セメント株



八戸セメント株代表取締役社長
明代 知也

当社は、水産都市、工業都市である青森県八戸市で大正7年に創業し、2024年で106年を迎えます。設立にあたっては、新紙幣の肖像に選ばれた渋沢栄一も関わっています。

セメントは建設材料として、防災インフラ設備の建設においても必要不可欠な資材です。また、生産工程で、多種の産業から発生する廃棄物、生活に欠かせない上水・下水処理場の汚泥、一般家庭のごみを焼却処理している清掃工場の灰を有効に活用しています。東日本大震災の際には災害廃棄物を約10万t受け入れ、復旧・復興のお手伝いをさせていただきました。

このような業績が認められ、2024年度は公益社団法人全国産業資源循環連合会より、地方優良事業所として表彰されました。

地域貢献として、年末・年始や市内で開催されるイベントでは、プレヒーターをライトアップし、市民の方から親しまれ、八戸市より八戸市景観賞の表彰を受けています。

ポルトランドセメントは、200年前に発明後、使用用途や取り巻く環境変化に対応してきました。新紙幣発行にあやかり、更に社会貢献する企業として成長したいと思います。



ライトアップされたプレヒーター